

八丈島ではアカコッコのことを親しみを込めて
「こっこめ」とよびます。

11
2018

「名前なんてどうでもイイから」号

秋雨前線の影響で雨が多かった気がする10月ですが、気象庁の過去データで調べてみると平年値465.9mmの半分ほどの235.5mmの降水量しか記録されていませんでした。島では雨の降っている地区と降っていない地区がはっきりしていて、車で走っていると路面が全く濡れていなくてビックリすることもあるので、きっと測候所の降水量以上の雨は降っていたと思います。また、北東の風の日も多く肌寒く感じることもありました。

11月。ザトウクジラとクロアシアホウドリがそろそろ帰ってくる時期になりました。楽しみです！

さて今回は、「ただのスズメとはちょっと違う！」「八丈島のゴキブリ事情」のお話です。

ただのスズメとはちょっと違う！

10月22日、大賀郷園地のスズメの群れにいた1羽の見慣れない鳥（写真右）をスタッフが撮影してきました。確認しに行くとその鳥は100羽ほどのスズメの群れと行動を共にしていました。

特徴的には、大きさはスズメよりもやや大きく見え、眼の上から後頭に向かう淡黄褐色の眉斑がとても目立ちます①。頬は淡灰褐色で喉元には黒斑がありません②。小雨覆の先端が淡黄褐色で白い線のように見え③、小翼羽は黒く、初列風切の根元の白っぽい部分が目立ちます④。くちばしはまだ若い個体のためか薄ピンク色でした⑤。胸は頬に比べると若干色が薄く見えます⑥。脚も薄ピンク色でした⑦。

当初はホオジロ科の鳥ではないかと思い、いろいろと調べてみましたが確答する種が見当たりませんでした。スズメと一緒にいたということでスズメ科を調べたところ、日本に稀に渡ってくるイエスズメの若いメス、もしくはニュウナイスズメの若いメスではないか？となりました。ちなみにスズメは雌雄同色ですが、他の2種は雌雄で羽色が違います。

八丈島ではスズメが留鳥で、ニュウナイスズメが稀に冬季に少数が渡ってきます。スズメは見慣れています。ニュウナイスズメやイエスズメは頭の中が“？”マークになってしまいます。オスならば特徴がはっきりしているので判別できるのですが、メスならなおさら“？”マークです。

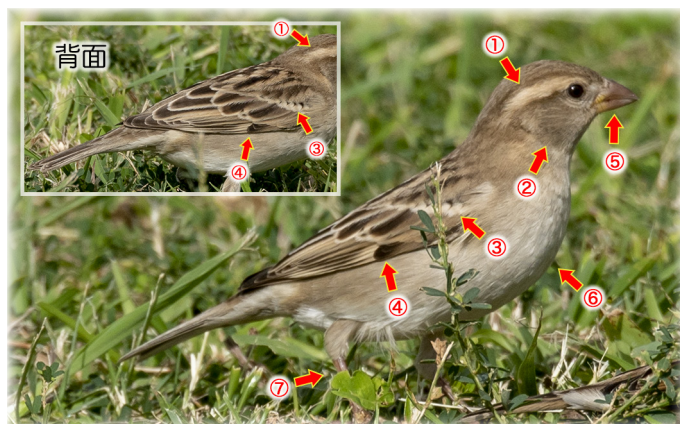
ニュウナイスズメやイエスズメの学名や英名で画像検索をしてみるとイエスズメにとっても近いように感じます。どうでしょうか？

イエスズメならば八丈島初記録となるのですが。

特徴が少なく見慣れていない鳥を判別するのはとても難しいです。名前の分かる名札付けて欲しいです。



2018年10月22日 大賀郷園地にて



スズメ



ニュウナイスズメ

「アカコッコ」は日本固有のヒタキ科（旧ツグミ科）の鳥で、国の天然記念物に指定されています。
八丈島では一年を通して見られ、町の鳥にも選定されています。

八丈島のゴキブリ事情

嫌いな人がとても多い可哀想なゴキブリ。植物公園のガイドウォークなどでもゴキブリの話をすると一歩下がり、身構えて聞く方が多いです。今回はそんな八丈島のゴキブリ事情についてです。

日本産直翅類標準図鑑によると日本には亜種を含め 65 種の記録があり、八丈島ではその内の 10 種が確認されています。

屋内に入り込むのは、ワモンゴキブリとクロゴキブリ、チャバネゴキブリの 3 種。それ以外の 7 種は野外性のゴキブリですが、森が近い家にはそれらのゴキブリが侵入することもあります。在来種か外来種かの判断は難しいですが、翅の無いサツマゴキブリは園芸植物に混じって入り込んだ国内外来種で、1975 年に初めて確認されています。さらに、サツマツチゴキブリは今回の調査で初めて確認できた種になります。園芸の盛んな島なので、持ち込まれた植物に紛れて島に入り込んだ種も多いかもしれません。

下の画像は翅がまだ無い幼虫です。大きくなると右の画像のどれかに成長します。どんな姿になるでしょうか？答えは最終ページで！

名前が分かると親しみが湧いてきませんか？いろいろなゴキブリがいるので潰さずにじっくり観察してみてくださいはいかがでしょう？

八丈島のゴキブリ目リスト

ゴキブリ科		
ゴキブリ亜科		
ワモンゴキブリ	<i>Periplaneta americana</i>	(Linnaeus, 1758)
クロゴキブリ	<i>Periplaneta fuliginosa</i>	Serville, 1838
ウルシゴキブリ	<i>Periplaneta japanna</i>	Asahina, 1969
チャバネゴキブリ科		
ヒメゴキブリ亜科		
ウスヒラタゴキブリ	<i>Megamareta pallidiola pallidiola</i>	(Shiraki, 1906)
サツマツチゴキブリ	<i>Margattea satsumana</i>	(Asahina, 1979)
チャバネゴキブリ亜科		
キチャバネゴキブリ	<i>Symploce japonica</i>	(Shelford, 1907)
チャバネゴキブリ	<i>Blattella germanica</i>	(Linnaeus, 1767)
ヒメチャバネゴキブリ	<i>Blattella lituricollis</i>	(Walker, 1868)
オオゴキブリ科		
オガサワラゴキブリ亜科		
オガサワラゴキブリ	<i>Pycnoscelus surinamensis</i>	(Linnaeus, 1758)
マダラゴキブリ亜科		
サツマゴキブリ	<i>Opisthoplatia orientalis</i>	(Burmeister, 1838)

分類・和名・学名は、「日本産直翅類標準図鑑」日本直翅類学会 による



ワモンゴキブリ



ウルシゴキブリ



ウスヒラタゴキブリ



キチャバネゴキブリ



ヒメチャバネゴキブリ



①



②



③



④



サツマゴキブリ

八丈植物公園季節調査会の報告

八丈ビジターセンターでは、毎月第二日曜日に、植物公園の生きもので季節を感じようという趣旨で、「八丈植物公園季節調査会」を開催しています。毎回見られる植物がどのように変化していくか、また、どんな鳥や植物が見られるかも観察しています。今回は 10 月 14 日 (13 時 30 分～15 時) に行いました。

八丈植物公園季節調査 (平成 30 年第 10 回) 調査者: 青木、鵜沢、沖山、茂手木、VC 菊池

NO.	和名 (島名)	状態	NO.	和名 (島名)	状態	NO.	和名 (島名)	状態
草本			35	ノコンギク	花	21	ホルトノキ	実
1	アオツツラフジ	花と実	36	ハシカグサ	花	22	モチノキ	実
2	アオノクマタケラン	実	37	ハチジョウアザミ	花と実	23	ヤブツバキ	実
3	アキノノゲシ	実	38	ハハコグサ	花	シダ植物		
4	アシタバ	花と実	39	ヒナギキョウ	花と実	1	アマクサシダ	
5	アツバミ	実	40	ヒメクグ	実	2	オオイタチシダ	
6	イガガヤツリ	実	41	フウトウカズラ	実	3	オオタニワタリ	
7	イヌタデ	実	42	ブラジルコミカンソウ	花と実	4	オニヤブソデツ	
8	イヌホオズキ	花と実	43	ヘクソカズラ	実	5	カニクサ	孢子葉
9	イワニガナ	花	44	ホソバツルメヒシバ	実	6	シチトウハナワラビ	栄養葉だけ
10	ウスベニニガナ	花	45	メヒシバ	実	7	タチクラマゴケ	
11	ウリクサ	花と実	46	メリケンカルカヤ	花	8	タチシノブ	栄養葉だけ
12	エダウチチヂミザサ	花と実	47	ヤブマオ	実	9	タマシダ	
13	オオバコ	実	木本			10	ナチシケシダ	
14	オニタビラコ	花	1	イタバカズラ	実	11	ナチシダ	
15	オヒシバ	実	2	イヌビワ	実	12	ノキシノブ	
16	オムナグサ	花と実	3	エノキ	実が残る	13	ハチジョウカナワラビ	
17	カタバミ	花と実	4	オオバヤシャブシ	実	14	ハチジョウシダ	
18	カラムシ	花と実	5	オオムラサキシキブ	実	15	ヒトツバ	
19	キツネノマゴ	花と実	6	ガクアジサイ	実	16	ホシダ	
20	クダマツリ	実	7	カラスザンショウ	実	17	ホラシノブ	
21	コニシキソウ	花と実	8	サカキカズラ	実	18	マツバラ	
22	ザクロソウ	花と実	9	シチトウエビヅル	熟した実	19	マメヅタ	
23	シチトウスミレ	実	10	シチトウタラノキ	花	20	ミゾシダ	
24	シマスズメノヒエ	実	11	シマクサギ	若い実	21	ヤマイタチシダ	
25	ススキ sp.	花	12	シマモクセイ	蕾	22	ワラビ	
26	セイタカアワダチソウ	花	13	スダジイ	実	今回はシダ植物 22 種を含む、92 種の植物を観察しました。昆虫ではカラムシの葉を丸めているアカタテハの幼虫が多く見られ、コオロギ類の声が何度も聞かれました。上空には渡りの途中のツバメが飛び交っていました。		
27	セイヨウタンポポ	花	14	タイミンタチバナ	若い実			
28	センニンソウ	花と実	15	テイカカズラ	実			
29	タチスズメノヒエ	実	16	トベラ	実			
30	チヂミザサ	花と実	17	ハゼノキ	実			
31	ツユクサ	花	18	ヒサカキ	熟した実			
32	ツルソバ	蕾	19	ヒメユズリハ	熟した実			
33	トウバナ	実	20	ホウライカズラ	実			
34	ネズミノオ	実						

八丈島では、内地と少し様変わりした種や独自に進化した種など、聞き慣れない種があるのが特徴です。今回は、「ヒゲシロスズ」にスポットを当ててみたいと思います。



Photo by K.HAYAKAWA

ヒゲシロスズ *Palaeoagraecia lutea*

ヒバリモドキ科シバズ属。本州・四国・九州・対馬・などに分布。

体長は 6～7mm、体は黒く、触覚の一部が白いので他の種との見分けがつけやすいです。背丈の高い草むらの地面にいるので見つけにくいですが、フィリリリリ…の声を頼りに探してみてください。

八丈島では 2018 年 10 月に八丈富士裾野で初めて記録されました。

2018 11

八丈ビジターセンター プログラムカレンダー

日付の下に書かれている時刻は、八丈島（神湊）の潮の満ち引きの時刻です。
左側が満潮時刻、右側が干潮時刻です。また日付の横は月の満ち欠けです。

日	月	火	水	木	金	土
	 この色の日は ガイドウォークや 特別行事があります			 1	2	3 ガイドウォーク
4 ガイドウォーク 東京文化財ウィーク企画 「シダ植物観察会 (北限のヘゴを訪ねて)」	5	6	立冬 7	8	9	10 ガイドウォーク
11 ガイドウォーク 植物公園季節調査会	12	13	14	 15	16	17 ガイドウォーク
18 ガイドウォーク	19	20	21	小雪 22	23 ガイドウォーク	24 ガイドウォーク 八丈学講座 「ひつつき虫を調べよう」
25 ガイドウォーク	26	27	28	29	 30	

イベントプログラム

東京文化財ウィーク企画事業

「シダ植物観察会
(北限のヘゴを訪ねて)」

鴨川林道を歩きながらシダの観察をして、大川にある北限のヘゴも見に行きます。
11 / 4 (9:30 ~ 約6時間) 中学生以上
ビジターセンター集合・解散 参加費: 500円(保険代) 定員: 20名

植物公園季節調査会

植物公園内で動植物の調査をしながら季節の変化を感じましょう！
11 / 11 (13:30 ~ 約1時間半) 中学生以上
ビジターセンター集合・解散 無料 定員: 15名

八丈学講座

「ひつつき虫を調べよう」

毎月行っている八丈学講座。ひつつき虫は植物の種子！どうやって種子がひつつくの？
11 / 24 (13:30 ~ 約1時間半) 中学生以上
和泉親水公園駐車場集合・解散: 50円 定員: 15名

ビデオプログラム

10:00 ~ 八丈・海・生きものたち

11:00 ~ おじゃりやれ 八丈島

14:00 ~ おじゃりやれ 八丈島

15:00 ~ おじゃりやれ 八丈島

16:00 ~ 八丈・海・生きものたち

上記以外での上映は予約にて可能です

東京都八丈ビジターセンター 2018.11.1 第210号

開館時間 9:00 ~ 16:45 年中無休(入場無料)

〒100-1401

東京都八丈島八丈町大賀郷2843

電話: 04996-2-4811 Fax: 04996-2-4888

編集後記

ネタが少なく、とうとう禁断の“G”ことゴキブリに手を出してしまいました。「今月号はゴキブリです。捕まえて持ってきてください！」と頼んでもイヤな顔せずに捕まえてきてくれるスタッフに感謝です。答え①ウスヒラタゴキブリ②ウルシゴキブリ③サツマゴキブリ④ヒメチャバネゴキブリ(高)